

男女の愛情関係：交流内容と心理的魅力との関係*¹

川名好裕*²

Love Relationships between Males and Females : Relations between Interactions and Psychological Attractions

KAWANA Yoshihiro

Abstract

Relations between interactions (communication, coaction, body-touch) and psychological attractions (romantic passion, intimacy, sexuality, commitment) are analyzed in love relationships between males and females using the internet survey data of samples of 968 males and 967 females living all over in Japan.

The analysis showed the following findings. Sexuality is related with body-touch for both males and females. Romantic passion is related with body-touch and communication. Coaction is negatively related with romantic passion for females. Intimacy is related with coaction, body-touch, communication for males, and with communication, coaction, body-touch in this order for females. Body-touch is fairly contributed to build the intimacy for males, while communication is strongly contributed to build the intimacy for females. Commitment is strongly advanced with body-touch then coaction and communication.

Sexuality is advanced by body-touch and romantic passion is by body-touch and communication, and intimacy by communication, coaction, body-touch, and commitment is strongly advanced by body-touch among these three interactions.

[Keywords] Love relationships, Interaction, Psychological attractions, Intimacy, Romantic passion

要約

インターネット調査（調査参加者は、日本全国からのサンプルで968名の男性と967名の女性。年齢20歳～49歳）で集積したデータをもとに、愛情関係にある男女における交流内容（コミュニケーション、共行動、身体接触）と心理的魅力（情熱性、親密性、性欲性、コミットメント）との関係を分析し検討した。

分析の結果、以下のような知見が得られた。性欲性と関係の深い交流内容は男女とも身体接触であった。情熱性との関係では身体接触、コミュニケーションとの関係が深く、女性においては共行動は情熱性を排斥する負の関係にあった。親密性との関係では、男性においては共行動、身体接触、コミュニケーションという関係順位であり、女性においてはコミュニケーション、共行動、身体接触という順序であった。男性においては身体接触が、女性においては、コミュニケーションが親密性の構築に影響を及ぼしているようである。コミットメントとの関係では、男女とも身体接触が最も大きな影響力があり、続いて共行動、コミュニケーションという関係順序であった。

性欲性は身体接触によって、情熱性は身体接触とコミュニケーション、親密性はコミュニケーション、共行動、身体接触によって、コミットメントは、これら3つの交流内容のうち、特に身体接触によって進展するという知見が得られた。

キーワード：愛情関係、交流内容、心理的魅力、親密性、情熱性

* 1 この研究は、2011年～2013年度立正大学心理学研究所の共同研究助成のもとで企画されたものの一部である。立正大学心理学研究所の助成に感謝の意を表したい。

* 2 立正大学心理学部教授

問題と目的

先行研究

日本における恋愛の進展段階の研究については、松井（1993）や松井（2000）などによって「恋愛段階の5段階説」が提唱されている。

一方、Sternberg（1986）は、恋愛関係における愛情の特性を、親密性、情熱性、コミットメントとから構成されているという「愛情の三角理論」（TLS: Triangular Theory of love）を提唱し、これらを測定する日本語版 TLS も作成されている。（金政・大坊、2003）

これらの恋愛の進展段階に関する先行研究と男女の愛情の分類特性を参考に川名・齊藤（2009）で「恋愛の進展段階」、および川名・齊藤（2010）で「恋愛の進展段階（2）」の研究がなされた。川名らはこの2つの研究を通して、恋愛の進展段階について次の4段階を設定した。

- 1段階：知り合い、友人、親友などの「友達段階」
- 2段階：恋人になる以前の「片思い段階」
- 3段階：相手との身体的関係がない「精神的恋人段階」（プラトニック）
- 4段階：キスや性的関係が出来た後の「性的恋人段階」

また、男女の恋愛の進展に影響を及ぼす重要要因である言語や行動の交流内容に関しては、松井の研究を参考に、「コミュニケーション」、「共行動」、「身体接触」、「いさかい」という交流内容の4つの側面を男女関係の交流内容として設定した。

また、男女を結びつける心理的魅力要因については、Sternberg（1986）の「愛情の三角理論」で展開された3つの因子を参考に、男女を結びつける愛情の三角理論の「親密性」、「情熱性」、「コミットメント」に加えて「性欲性」という4つの男女を結びつける心理的魅力要因を設定した。Sternberg（1986）の「愛情の三角理論」では、性欲性は情熱性に含まれるものとして扱われているが、「恋心」と「性欲」とは、違う性質を示す場面も多いので、別の概念として扱うことにした。交流内容の4成分と男女を結びつける心理的魅力要因の4成分の合計8つの側面に関して、男女関係の進展段階を比較検討した。

しかし、これらの研究のサンプルは、20歳前後の大学生の男女という小規模サンプルで、さまざまな結論の妥当性の検証には、より年齢層が広く、かつ大サンプルも必要であろう。また、学生サンプルであると、男女関係の進展も婚約以前ということになるので、数少ない婚約関係段階のサンプル、さらに結婚後の夫婦関係のサンプルも必要で大規模調査が望まれた。

そこで川名（2014）は、日本全国の20代～40代の男女それぞれ1000人弱の大サンプルでインターネット調査を実施した。友人、片思い、精神的恋人（プラトニック関係）、性的恋人、婚約者、配偶者という6つのすべての関係進展段階のサンプルを集めた。そこでデータ分析のうち、相互作用側面についての結果を報告した。相互作用側面とは、男女の付き合いの内容のことで、具体的に分類すると、コミュニケーション、共行動、身体接触、いさかいという側面である。これらの相互作用側面を男女比較し、また20代～40代の年代間比較を行った。分析の結果、次のような知見が得られた。男性は女性よりも進展段階の初期の段階でコミュニケーションおよび共行動において活発である一方、女性は進展段階の後半、とくに婚約段階以後において相互作用において活発であることが分かった。身体接触傾向に関しては、男性は女性よりすべての進展段階でより活発であった。世代間比較では、20代のカップルは、30代や40代のカップルより、コミュニケーション、共行動、身体接触のすべてでより活発であることが明らかにされた。他方、意見不一致などの「いさかい」は、進展段階が進むほど多くなり、夫婦関係で頂点に達することが分かった。男性の浮気傾向は、すべての進展段階で女性の浮気傾向を上回っていた。特に女性は、結婚後は急激に浮気傾向がなくなることも明らかにされた。また、男性の嫉妬傾向は女性の嫉妬傾向より高かった。男性は婚約後から夫婦関係にかけて嫉妬傾向が特に高いことが分かった。こうした男女の相互作用形態の違いについて進化心理学的説明がなされた。

さらに、川名（2016）は、以上の川名（2014）のデータ分析に加えて、親密性、情熱性、性欲性、コミットメントという4つの「男女を結びつける心理的魅力」について分析をした。これらの心理的魅力成分を性別、関係進展段階、本人の年代について比較した。その結果、男性は女性より「性欲性」がすべての関係段階で上回ったのに対して、女性は

相互の愛情的関係が形成された後では、男性以上に「親密性」が高いことが分かった。また、「情熱性」に関しては、男女は片思い段階以後から結婚以前まで同じ程度に高かったが、女性は結婚後、急激に情熱性が下降するのに対して、男性は結婚後も女性より情熱性は維持されていた。男性は、「性欲性」と「情熱性」において女性より上回り、女性は男性との関係が確定する婚約以後、結婚期間を通して「親密性」において、男性を上回っていることが分かった。男性は男女の関係段階の初期から性的恋人になるまで、積極的に相手の女性にアプローチするのに対して、女性は男女の関係段階の最後の段階の婚約、結婚段階で相手への「コミットメント」が大きくなることが分かった。

本研究の目的

本研究は、川名（2014）と川名（2016）の分析に引き続いて、男女間の「交流内容」（コミュニケーション、共行動、身体接触、コミットメント）と、男女間を結びつけている3つの「心理的魅力要因」（親密性、情熱性、性欲性）とが、どのような関係にあるかを特に男女比較で比較検討することを研究目的とした。

調査対象者

インターネット調査サンプルによる日本全国の20代～40代の男女の男性968人、女性967人。

方 法

被調査者と調査時期

インターネット調査会社の登録者サンプルから、日本全国の20～49歳の男女にオンライン・アンケート調査を依頼した。対象調査実施期間は2011年7月であった。有効データ数は、合計1935人（女性967人、男性968人）で、そのデータ構成は、20代～40代（20歳～49歳）の男女を知合い・友人、片思いの相手、プラトニックな恋人、性的関係のある恋人、婚約者、配偶者（結婚相手）のそれぞれのカテゴリーに属する被調査者について、データ数を収集した。

調査内容

インターネット調査で使用されたアンケート項目を Table 1 に示す。質問は全部で、77問で、本人の恋人など最も親しい異性を思いうかべてその相手について諸質問に回答してもらった。

質問群の構成は以下のとおりである。

① 比較項目の質問 （問1～問6）

相手の年齢、相手との関係、付き合い（知り合い）期間、知り合ったきっかけ、現在までに付き合った異性の数などである。

- ② 恋愛タイプについての質問 （問7～問31）
- ③ コミュニケーションについての質問 （問32～問36）
- ④ 共行動についての質問 （問37～問41）
- ⑤ 身体接触についての質問 （問42～問46）
- ⑥ 情熱性についての質問 （問47～問51）
- ⑦ 親密性についての質問 （問52～問56）
- ⑧ 性欲性についての質問 （問57～問61）
- ⑨ コミットメントについての質問 （問62～問66）
- ⑩ いさかいについての質問 （問67～問69）
- ⑪ 嫉妬についての質問 （問70～問73）
- ⑫ 浮気についての質問 （問74～問77）

なお、問7～問77については、全く当てはまらない（1点）から非常に当てはまる（7点）のリッカート尺度である。

Table 1. 本研究で用いられた調査項目

あなたの地位: 学生 会社員 フリーター 無職 年齢: 歳 性別: 男 女

これから、あなたの現在の恋人、もしくは、最も親しい異性(親兄弟を除く)について、うかがいます。
その特定の人を心に思い描いて、以下の質問に答えて下さい。

問1 あなたは、1. 独身(未婚) 2. 独身(結婚歴あり) 3. 既婚

問2 その人の年齢は何歳ですか。 歳

問3 その人と、あなたはどのような関係ですか。最も該当するものに○をつけて下さい。
1. 知り合い・友人
2. 片思いの相手
3. 恋人(プラトニック(精神的)な関係)
4. 恋人(相手と性的関係がある)
5. 婚約者
6. 配偶者(結婚相手) 結婚年数:(年 ヶ月)

問4 その人とは何ヶ月、知り合っていますか(いましたか)? (ヶ月)(年は月に換算して下さい)

問5 その人と、どのようにして知り合いましたか。最も該当するものに○をつけて下さい。
1. 学校のサークル 2. 友達紹介 3. 同じ職場・バイト先 4. 幼なじみ
5. 友達の元彼(女) 6. 合コン 7. 同じ学校 8. その他()

問6 あなたは今まで何人の異性と付き合ってきましたか。(約 人)

以下の各質問について、あなたの場合に最も当てはまる数字に○をつけて下さい。

	全く当てはまらない	当てはまらない	やや当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	当てはまる	非常に当てはまる
問7	1	2	3	4	5	6	7
問8	1	2	3	4	5	6	7
問9	1	2	3	4	5	6	7
問10	1	2	3	4	5	6	7
問11	1	2	3	4	5	6	7
問12	1	2	3	4	5	6	7
問13	1	2	3	4	5	6	7
問14	1	2	3	4	5	6	7
問15	1	2	3	4	5	6	7
問16	1	2	3	4	5	6	7
問17	1	2	3	4	5	6	7
問18	1	2	3	4	5	6	7
問19	1	2	3	4	5	6	7
問20	1	2	3	4	5	6	7
問21	1	2	3	4	5	6	7
問22	1	2	3	4	5	6	7
問23	1	2	3	4	5	6	7
問24	1	2	3	4	5	6	7
問25	1	2	3	4	5	6	7
問26	1	2	3	4	5	6	7
問27	1	2	3	4	5	6	7
問28	1	2	3	4	5	6	7
問29	1	2	3	4	5	6	7
問30	1	2	3	4	5	6	7
問31	1	2	3	4	5	6	7
問32	1	2	3	4	5	6	7
問33	1	2	3	4	5	6	7
問34	1	2	3	4	5	6	7
問35	1	2	3	4	5	6	7
問36	1	2	3	4	5	6	7
問37	1	2	3	4	5	6	7
問38	1	2	3	4	5	6	7
問39	1	2	3	4	5	6	7
問40	1	2	3	4	5	6	7
問41	1	2	3	4	5	6	7
問42	1	2	3	4	5	6	7
問43	1	2	3	4	5	6	7
問44	1	2	3	4	5	6	7
問45	1	2	3	4	5	6	7
問46	1	2	3	4	5	6	7
問47	1	2	3	4	5	6	7
問48	1	2	3	4	5	6	7
問49	1	2	3	4	5	6	7
問50	1	2	3	4	5	6	7
問51	1	2	3	4	5	6	7
問52	1	2	3	4	5	6	7
問53	1	2	3	4	5	6	7
問54	1	2	3	4	5	6	7
問55	1	2	3	4	5	6	7
問56	1	2	3	4	5	6	7
問57	1	2	3	4	5	6	7
問58	1	2	3	4	5	6	7
問59	1	2	3	4	5	6	7
問60	1	2	3	4	5	6	7
問61	1	2	3	4	5	6	7
問62	1	2	3	4	5	6	7
問63	1	2	3	4	5	6	7
問64	1	2	3	4	5	6	7
問65	1	2	3	4	5	6	7
問66	1	2	3	4	5	6	7
問67	1	2	3	4	5	6	7
問68	1	2	3	4	5	6	7
問69	1	2	3	4	5	6	7
問70	1	2	3	4	5	6	7
問71	1	2	3	4	5	6	7
問72	1	2	3	4	5	6	7
問73	1	2	3	4	5	6	7
問74	1	2	3	4	5	6	7
問75	1	2	3	4	5	6	7
問76	1	2	3	4	5	6	7
問77	1	2	3	4	5	6	7

結果と考察

交流内容成分の分類

男女関係の交流側面については、先行研究から次の4つに分類された。質問調査での問番号との対応は以下のとおりである。

- ① コミュニケーションについての質問 (問32～問36)
- ② 共行動についての質問 (問37～問41)
- ③ 身体接触についての質問 (問42～問46)

① コミュニケーションの質問項目

- 問32 よく、メールで相手と連絡を取り合っている
- 問33 些細なことで、相手にメールをしたりする
- 問34 電話でよく、話をする
- 問35 寂しいときや、ひまなとき相手に電話したりする
- 問36 会ったときに相手といろいろなことについて話をするのが楽しみだ

② 共行動についての質問項目

- 問37 相手とデートをよくする
- 問38 一緒に買い物に行く
- 問39 相手の住まいをよく訪問する
- 問40 一緒に旅行に行ったりする
- 問41 一緒に行楽やイベントに行ったりする

③ 身体接触についての質問項目

- 問42 よく相手と手をつないだり、腕を組んだりする
- 問43 よく相手の肩や腰に手をまわす
- 問44 相手の身体にさわりたい
- 問45 相手を抱きしめたりする
- 問46 相手とよくキスをしたりする

これらの質問項目についてのデータに主成分分析を行い、それぞれの第一主成分をコミュニケーション成分、共行動成分、身体接触成分とした。

心理的魅力成分の分類

男女を心理的に結び付ける心理的魅力要因に関しては、先行研究から次の4つに分類された。質問調査での問番号との対応は以下のとおりである。

- ④ 性欲性についての質問 (問57～問61)
- ⑤ 情熱性についての質問 (問47～問51)
- ⑥ 親密性についての質問 (問52～問56)
- ⑦ コミットメントについての質問 (問62～問66)

④ 性欲性についての質問項目

- 問57 相手といると性的興奮をする
- 問58 性的接触を自分から求めることがある
- 問59 相手との性的接触がよくある
- 問60 相手との性的接触をめんどうに感じる
- 問61 相手から性的接触を求められるとうんざりする

⑤ 情熱性についての質問項目

- 問47 相手は自分にとって非常に魅力的な人だ
- 問48 相手について空想にふけることがある
- 問49 相手を見るだけでドキドキしてしまう
- 問50 ロマンチックな映画を観たり本を読んだりするとつい相手のことを考えてしまう
- 問51 ふと気が付くと相手のことを考えていることがよくある

⑥ 親密性の質問項目

- 問52 相手との関係は居心地の良いものである
- 問53 自分は必要な時には相手を頼ることができる
- 問54 相手とはうまくコミュニケーションがとれている
- 問55 自分と相手の関係は温かいものである
- 問56 相手は必要な時には自分を頼ってくる

⑦ コミットメントについての質問項目

- 問62 自分にとって相手との関係よりも大切なものなど他にない
- 問63 自分と相手との関わりは揺ぎないものである
- 問64 相手なしの生活など考えられない
- 問65 相手との関わりは強いもので、何ものにも邪魔されたくない
- 問66 相手との関係を終わらせることなど自分には考えられない

これらの質問項目についてのデータに主成分分析を行い、それぞれの第一主成分を親密性成分、情熱性成分、性欲性成分、コミットメント成分とした。

重回帰分析

男女の交流内容（コミュニケーション、共行動、身体接触）が、男女の心理的魅力（性欲性、情熱性、親密性、コミットメント）にどのような影響力をもっているかを調べるために、交流内容を影響変数、心理的魅力を目的変数とする重回帰分析（段階的重回帰分析・増減法）を実施した。Table 2に「交流内容から心理的魅力への重回帰分析」の結果を示す。

Table 2では、心理的魅力成分（性欲性、情熱性、親密性、コミットメント）をそれぞれ目的変数として設定し、交流内容成分（コミュニケーション成分、共行動成分、身体接触成分）を影響変数として設定し、重回帰分析（段階的重回帰分析・増減法）をした。前半が男女込みの重回帰分析、後半が男女別の重回帰分析の結果である。

Table 2. 交流内容から心理的魅力への重回帰分析

男女込み重回帰分析

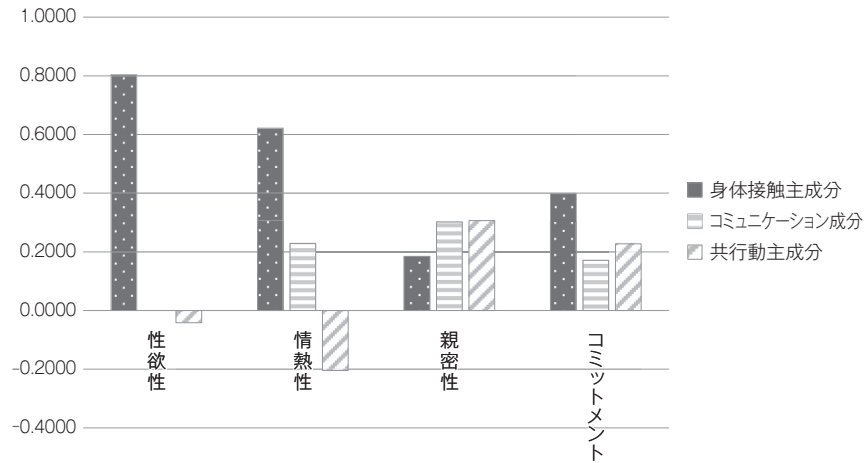
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 性欲性 (男女込)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.65011975	0.015788	0.803621517	0.619155993	0.681083511	1695.5873	41.178	1.416E-266	**	0.7757	0.68377	0.5402021	1.851159
共行動主成分	-0.0338483	0.01607	-0.041106717	-0.06536467	-0.002331949	4.4365219	-2.106	0.03530659	*	0.5038	-0.04788	0.5402021	1.851159
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 情熱性 (男女込)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.61276955	0.024139	0.621176741	0.565427654	0.660111453	644.38299	25.385	6.644E-123	**	0.6191	0.50031	0.5075735	1.970158
コミュニケーション成分	0.25728954	0.027746	0.229043398	0.202874778	0.311704305	85.99077	9.2731	4.6836E-20	**	0.4593	0.20653	0.4981975	2.007236
共行動主成分	-0.2052469	0.027087	-0.204414799	-0.25837069	-0.152123206	57.413915	-7.577	5.4457E-14	**	0.3738	-0.16997	0.4176166	2.394541
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 親密性 (男女込)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.30498557	0.025061	0.306293177	0.255836507	0.354134641	148.10479	12.17	6.9742E-33	**	0.6387	0.26696	0.4176166	2.394541
コミュニケーション成分	0.33669287	0.02567	0.302240013	0.286349372	0.387036363	172.03712	13.116	1.0351E-37	**	0.6223	0.28608	0.4981975	2.007236
身体接触主成分	0.18066256	0.022333	0.184675191	0.136862739	0.224462373	65.438416	8.0894	1.0486E-15	**	0.5726	0.18109	0.5075735	1.970158
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = コミットメント (男女込)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.39682712	0.022624	0.397601672	0.352456791	0.441197449	307.65109	17.54	5.032E-64	**	0.6541	0.37079	0.5075735	1.970158
共行動主成分	0.23125374	0.025387	0.227642441	0.181464481	0.281042992	82.975011	9.1091	2.0195E-19	**	0.6146	0.20303	0.4176166	2.394541
コミュニケーション成分	0.19462617	0.026004	0.171248086	0.143626927	0.24562541	56.016516	7.4844	1.0861E-13	**	0.5644	0.16794	0.4981975	2.007236

男女別の重回帰分析

回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 性欲性 (男性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.6277	0.0153	0.7966	0.5977	0.6578	1677.5641	40.9581	0.0000	**	0.8057	0.8057	1.0000	1.0000
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 性欲性 (女性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.6715	0.0222	0.8123	0.6280	0.7151	915.3664	30.2550	0.0000	**	0.7651	0.7064	0.6040	1.6557
共行動主成分	-0.0718	0.0227	-0.0847	-0.1164	-0.0272	9.9641	-3.1566	0.0016	**	0.4266	-0.1084	0.6040	1.6557
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 情熱性 (男性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.5678	0.0379	0.5744	0.4935	0.6422	224.7303	14.9910	0.0000	**	0.5991	0.4331	0.4301	2.3249
コミュニケーション成分	0.2770	0.0407	0.2510	0.1971	0.3569	46.2865	6.8034	0.0000	**	0.4929	0.2194	0.4640	2.1553
共行動主成分	-0.1852	0.0414	-0.1855	-0.2666	-0.1039	19.9865	-4.4706	0.0000	**	0.4121	-0.1461	0.3669	2.7252
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 情熱性 (女性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身体接触主成分	0.6421	0.0316	0.6521	0.5801	0.7041	413.6134	20.3375	0.0000	**	0.6345	0.5472	0.5716	1.7494
コミュニケーション成分	0.2433	0.0381	0.2131	0.1686	0.3179	40.8629	6.3924	0.0000	**	0.4338	0.2062	0.5286	1.8918
共行動主成分	-0.2153	0.0361	-0.2135	-0.2861	-0.1445	35.6392	-5.9699	0.0000	**	0.3367	-0.1923	0.4596	2.1759
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 親密性 (男性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
共行動主成分	0.2917	0.0372	0.2940	0.2188	0.3646	61.6415	7.8512	0.0000	**	0.6607	0.2533	0.3669	2.7252
身体接触主成分	0.2659	0.0340	0.2709	0.1993	0.3326	61.3175	7.8306	0.0000	**	0.6405	0.2524	0.4301	2.3249
コミュニケーション成分	0.2505	0.0365	0.2285	0.1788	0.3221	47.0657	6.8604	0.0000	**	0.6123	0.2070	0.4640	2.1553
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = 親密性 (女性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
コミュニケーション成分	0.4044	0.0360	0.3577	0.3337	0.4750	126.2651	11.2368	0.0000	**	0.6328	0.3355	0.5286	1.8918
共行動主成分	0.3054	0.0341	0.3057	0.2384	0.3723	80.1522	8.9528	0.0000	**	0.6298	0.2837	0.4596	2.1759
身体接触主成分	0.1259	0.0299	0.1291	0.0673	0.1845	17.7734	4.2158	0.0000	**	0.5243	0.1400	0.5716	1.7494
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = コミットメント (男性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
コミュニケーション成分	0.1755	0.0358	0.1605	0.1052	0.2457	24.0453	4.9036	0.0000	**	0.5895	0.1597	0.4640	2.1553
共行動主成分	0.2275	0.0364	0.2300	0.1560	0.2989	39.0334	6.2477	0.0000	**	0.6428	0.1951	0.3669	2.7252
身体接触主成分	0.4003	0.0333	0.4088	0.3349	0.4656	144.6096	12.0254	0.0000	**	0.6802	0.3594	0.4301	2.3249
回帰式に含まれる変数 (偏回帰係数・信頼区間等)													
目的変数 = コミットメント (女性)			偏回帰係数の95%信頼区間		偏回帰係数の有意性の検定			*: P<0.05		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
影響変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	** : P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
コミュニケーション成分	0.2114	0.0377	0.1798	0.1375	0.2853	31.5197	5.6142	0.0000	**	0.5471	0.1807	0.5286	1.8918
共行動主成分	0.2338	0.0357	0.2250	0.1637	0.3038	42.9033	6.5501	0.0000	**	0.5895	0.2045	0.4596	2.1759
身体接触主成分	0.3963	0.0312	0.3907	0.3349	0.4576	160.8660	12.6833	0.0000	**	0.6307	0.3770	0.5716	1.7494

交流内容が心理的魅力に及ぼす影響（男女込みの全般的傾向）

Fig.1は、Table2の重回帰分析の結果のうち、男女込みの重回帰分析の標準偏回帰係数のうち、有意（ $p<.05$ $p<.01$ ）な影響力のあったものだけをグラフ化して、各心理的魅力成分への交流内容成分の影響力を比較したものである。



変数	性欲性	情熱性	親密性	コミットメント
身体接触主成分	0.8036	0.6212	0.1847	0.3976
コミュニケーション成分	0.0000	0.2290	0.3022	0.1712
共行動主成分	-0.0411	-0.2044	0.3063	0.2276

数値は、有意な交流内容から各心理的魅力への標準偏回帰係数

Fig.1 交流内容から心理的魅力への影響力（男女込）

「性欲性」と関連の深い交流内容は、圧倒的に「身体接触」の影響力が大きい。性欲が高まれば身体接触は盛んになり、また、身体接触が多いと性欲性が亢進されることがこの結果から分かる。共行動成分の影響は微小であるが、負の影響がある。共行動は男女の外出的な共活動であるとする、それが性欲性を抑制する方向に働くのは納得できる。

次に、「情熱性」と関連の深い交流内容は、第1に「身体接触」、第2にコミュニケーションであり、「共行動」は、ネガティブな方向に延びているので、「情熱性」を抑制する影響があると解釈できる。「情熱性」は、恋心とか恋愛感情の中核をなす感情であるが、身体接触とコミュニケーションによって促進されるということは、「情熱性」が「身体的性欲性」とコミュニケーションによる精神的交流によって構成されていることが分かる。コミュニケーションが促進的に、共行動が抑制的に影響を及ぼしているところは興味深いと言えるであろう。

「親密性」に影響を及ぼす交流内容は、「コミュニケーション」と「共行動」の影響が同じくらい大きい。「身体接触」は、それよりは小さいが有意な影響力を「親密性」構築を促進している。「コミュニケーション」、「共行動」、「身体接触」のすべてが親密性の促進に役立っているようである。特に「共行動」が「性欲性」や「情熱性」では抑制的に影響を及ぼしていたが、「親密性」においては、促進的に影響を及ぼしていることは、注目に値する。また、「親密性」においては、「身体接触」の影響力が最も小さいが、これは、もともと、「親密性」という概念は、男女間の関係だけでなく、同性間の友情関係や家族との関係を促進する重要な心理的魅力であることを考えると、「親密性」の構築には、「身体接触」は必須の要件ではない。男女関係も性的な要因の影響力の強い「性欲性」や「情熱性」がなくなると、「親密性」によって結びつく関係は、「身体接触」を必要としなくなる。男女関係が「よい友達でいましょう！」と宣言されると「性的な要因」は、排除される関係となるのである。

「コミットメント」への影響力は、「親密性」への影響力と似ていて、「身体接触」、「コミュニケーション」、「共行動」のすべての交流内容が促進的効果を持っている。しかし、「親密性」との相違点は、「親密性」では、「コミュニケーション

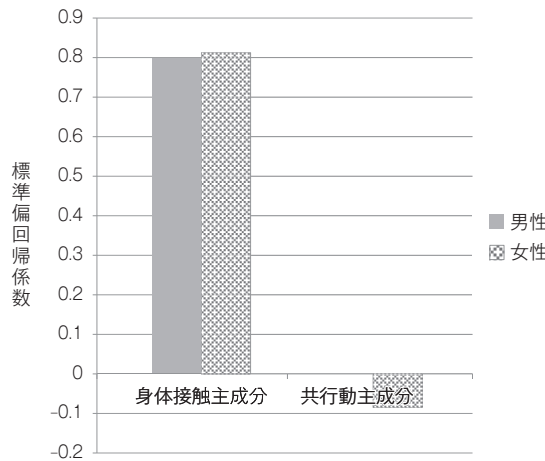
ン」と「共行動」が大きな影響力をもっていたが、「コミットメント」に最も大きな影響力を及ぼしているのは、「身体接触」であり、「コミュニケーション」と「共行動」の影響力は、その半分程度である点である。「コミットメント」という概念は、男女間の関係の進展において、男女の暗黙、ないし明示的な約束事によって関係がより深い関係に進展し、後戻りが難しくなる心理的力であるが、男女関係においては、相手と「性的な関係」ができたり、進行したりすることは、「コミットメント」に大きな促進的効果をもつことを考えると、性的関係の進展を意味する「身体接触」の増加が、そのまま、「コミットメント」を促進するのに大きな役割をもっていることは納得できることである。

交流内容が心理的魅力に及ぼす影響（男女比較）

以上は、男女のデータを込みにして交流内容が心理的魅力に及ぼす全般的な影響を分析したが、次に男女データを別々に重回帰分析して、男女でどのような差異があるか、検討しよう。

性欲性への影響力（男女比較）

Fig. 2は、交流内容（身体接触、コミュニケーション、共行動）が性欲性に及ぼす影響を男女で比較したものである。縦軸は重回帰分析の有意な影響力のあった交流内容の標準偏回帰係数を示し、これが影響力の指標となる。



変数	男性	女性
身体接触主成分	0.7966	0.8123
共行動主成分	0	-0.0847

数値は、有意な交流内容から各心理的魅力への標準偏回帰係数

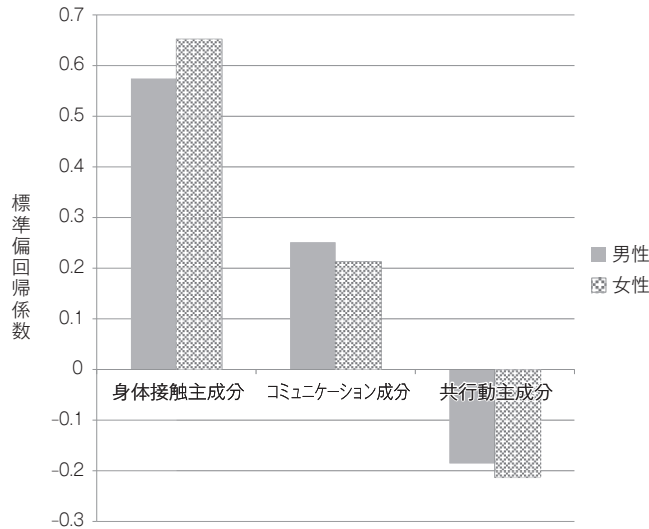
Fig. 2 性欲性への影響力（男女比較）

男性においては、唯一有意な性欲性に影響をもっている交流内容は、「身体接触」のみであった。「コミュニケーション」および「共行動」の有意な影響力はいっさいなかった。女性は男性と「身体接触」の影響力の大きさはほとんど同じ大きさであったが、女性の場合、「共行動」の影響は微小なものであるが、ネガティブな方向、すなわち、「性欲性」を抑制する方向に延びている。「性欲性」と唯一関係の密接な関係にあるのは、男女とも「身体接触」であることが分かる。

情熱性への影響力（男女比較）

Fig. 3は、交流内容（身体接触、コミュニケーション、共行動）が情熱性に及ぼす影響を男女で比較したものである。縦軸は重回帰分析の有意な影響力のあった交流内容の標準偏回帰係数を示し、これが影響力の指標となる。

Fig. 3を見てもお分かりのように、情熱性への最も大きな影響力のあるものは、身体接触で、それにコミュニケーション



変数	男性	女性
身体接触主成分	0.5744	0.6521
コミュニケーション成分	0.2510	0.2131
共行動主成分	-0.1855	-0.2135

数値は、有意な交流内容から各心理的魅力への標準偏回帰係数

Fig. 3 情熱性への影響力（男女比較）

ンが続くが、その影響力の大きさは、「身体接触」の半分以下である。また、「共行動」に関しては、逆に「情熱性」を阻害、抑制するものとしての影響力があるようである。男女の差異に注目すると、「身体接触」の影響の大きいのは男性より女性の方であり、「コミュニケーション」に関しては男性の方が女性より少し、影響力が大きい。「共行動」の阻害、抑制的影響は男性より女性の方が少し大きい。情熱性に関しては、男性の方が女性より、コミュニケーションによる感応性が高く、女性の方が身体接触による感応性が高いのかもしれない。とは言え、男女差は微小である。

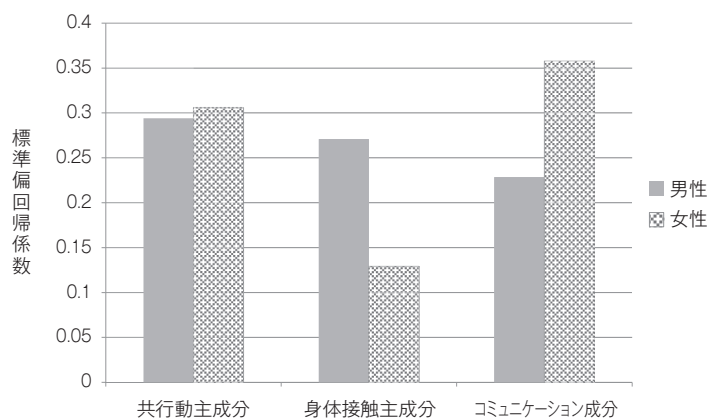
親密性への影響力（男女比較）

Fig. 4 は、交流内容（身体接触、コミュニケーション、共行動）が親密性に及ぼす影響を男女で比較したものである。縦軸は重回帰分析の交流内容の標準偏回帰係数を示し、これが影響力の指標となる。

Fig. 4 を見ると、男女で親密性に対して、共行動、身体接触、コミュニケーションのすべてが有意な影響力をもっているという点は、共通であるが、それぞれの交流内容の相対的影響力の大きさが男女で違う。

男性は、共行動>身体接触>コミュニケーションという順で「親密性」に影響をもっているが、女性は、コミュニケーション>共行動>身体接触という順序で「親密性」に影響をもっている。

これは、男性は「親密性」の構築に「身体接触」の及ぼす影響は女性よりも大きいと、女性は、「コミュニケーション」の果たす役割が男性より大きいと言える。このことは、男性が「性的」なものに、女性がコミュニケーションを介して得られる「愛」に関心が高いとも解釈できる。



変数	男性	女性
共行動主成分	0.2940	0.3057
身体接触主成分	0.2709	0.1291
コミュニケーション成分	0.2285	0.3577

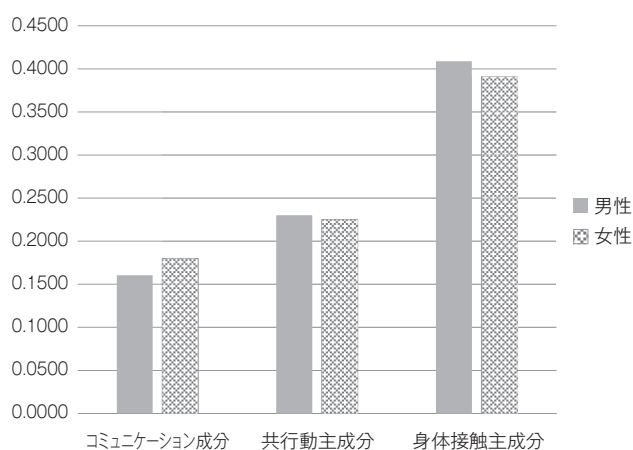
数値は、有意な交流内容から各心理的魅力への標準偏回帰係数

女性にとっては、コミュニケーションが親密性の進展に重要である。
男性は、身体接触によって親密性が進展する。

Fig. 4 親密性への影響力（男女比較）

コミットメントへの影響力（男女比較）

Fig. 5 は、交流内容（身体接触、コミュニケーション、共行動）がコミットメントに及ぼす影響を男女で比較したものである。縦軸は重回帰分析の交流内容の標準偏回帰係数を示し、これが影響力の指標となる。



変数	男性	女性
コミュニケーション成分	0.1605	0.1798
共行動主成分	0.2300	0.2250
身体接触主成分	0.4088	0.3907

数値は、有意な交流内容から各心理的魅力への標準偏回帰係数

Fig. 5 コミットメントへの影響力（男女比較）

コミットメントへの交流内容からの影響は、男女でほとんど同じで、身体接触>共行動>コミュニケーションという順で影響力が大きい。男女で際立った違いはないが、あえて言うなら、男性の方が身体接触において、女性の方がコミュニケーションにおいて、異性よりコミットメントへの影響が多少大きいかもしれない。

総合的知見：

本研究の目的は、男女関係における行動に現れる交流内容（コミュニケーション、共行動、身体接触）と心で相手に惹かれる心理的魅力要因（性欲性、情熱性、親密性、コミットメント）とがどのような関係にあるのかを分析するものであった。分析の結果、分かった知見は、以下のようなものである。

1. 「性欲性」と唯一関係のある交流内容は、「身体接触」である。手をつないだり、抱き合ったり、キスしたり、セックスすることは、ほとんど性欲性に端を発し、また、性欲性を促進するものである。
2. 「情熱性」とは恋心とか恋愛感情と言われるものの概念であるが、これに深く関連する交流内容は、「身体接触」と「コミュニケーション」である。「性欲性」と「情熱性」の違いは、男女関係に性欲だけでなく、精神的な交流である「コミュニケーション」が大きな役割を演じていることを示している。
3. 「親密性」は、男女の関係でない同性の友情関係や家族間の愛情関係で考えられる「愛」の概念で、「親密性」に深く関連している交流内容は、「コミュニケーション」と「共行動」である。同性どうしの友情関係や家族間の親密関係は、この二つの交流内容の増加によって促進される。
ただ、男女関係になると、そこに「身体接触」も参入するようになるのである。男女関係の親密性では、この「身体接触」も親密性の促進に貢献しているようだ。
4. 「コミットメント」は、男女間の明示的、暗黙的な約束を表すもので、男女関係が進展して後戻りにくい心理を生み出す概念である。「コミットメント」に最も影響力をもつのは交流内容のうちで、「身体接触」である。「身体接触」と一番関連のある心理的魅力性は、「性欲性」であるので、「性的関係」の進展が、コミットメントを促進する第一の要因であることが分かる。「共行動」、「コミュニケーション」がそれに続く影響力を持っている。
5. 「身体接触」が「性欲性」に唯一の大きな影響をもつことは、男女共通である。
6. 情熱性への影響力は男女共通で、「身体接触」が最も大きな影響をもち、「コミュニケーション」は、その半分位の影響力をもつ。「共行動」は、「情熱性」を抑制する効果をもつ。
7. 「親密性」には、交流内容の「共行動」、「身体接触」、「コミュニケーション」の3つとも促進効果を持つ。男女による違いは、男性では、影響力の順序は、共行動>身体接触>コミュニケーションであるが、女性では、コミュニケーション>共行動>身体接触という順序になる。
8. 「コミットメント」への影響力は、男女とも
身体接触>共行動>コミュニケーションという順序である。

引用文献

- 金政祐司・大坊郁夫 2003 愛情の三角理論における3つの要素と親密な異性関係 感情心理学研究, 10, 11-24.
- 川名好裕・齊藤勇 2009 恋愛の進展段階 日本社会心理学会 第50回大会発表論文集, 112-113.
- 川名好裕・齊藤勇 2010 恋愛の進展段階(2) 日本社会心理学会 第51回大会発表論文集, 74-75.
- 川名好裕 2014 男女関係の進展による交流内容の変化 立正大学心理学研究年報 第5号, 11-25.
- 川名好裕 2016 男女関係の進展による心理的魅力要因の変化 立正大学心理学研究所紀要14号, 3-12.
- 松井豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64(5), 335-342.
- 松井豊 2000 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会 第41回大会発表論文集, 92-93.
- Sternberg, R. J. 1986 "A triangular theory of love," *Psychological Review*, Vol.93, No.2, 119-135.